

第8回まちづくり市民協議会会議録

日時：令和3年11月17日（水）18時30分～

会場：光市役所3階 大会議室1・2・3号

出席者 委員 20名（欠席16名）
事務局 7名

1 会長あいさつ

本日は、忙しい中ご出席をいただき感謝申し上げます。

先日の会議では専門部会として様々な行政分野の課題や方向性について議論をいただいたが、総合計画の策定もいよいよ佳境に入ってきたことから、本日もよろしく願いたい。

挨拶に入る前であるが、光市食生活改善推進協議会の会長であり、本協議会の副会長を務めておられる天野加代子さんが、ボランティア活動で功績のあった方、本年の山口県で8人のみに送られる緑綬褒章を受章された。長年にわたるご尽力とご功績が広く認められたことを心よりお喜び申し上げますとともに、本協議会委員が表彰されたことを本当に嬉しく思う。

先日、東洋経済新報社より都市データパック2021が発刊された。これは、去年の全国815市、区の住み良さランキングを示したもので、お隣の下松市が10位に入っていた。本市はというと、全体では254位ながらも、安心度は県内13市中の4位、全国では286位と下松、周南を上回っている結果であった。快適度も全国815市区の中の200位で、山口県内では3位と上位に位置しているが、利便性が低いということであった。

一方、11月8日に発行された市内新聞社である瀬戸内タイムス社の記事に、大東建託が実施した調査に基づく満足度ランキングが掲載されていた。先程紹介した都市データパック2021は、20程度の指標の中で全国の順番をつけており、ハード面での観点などで決まっているが、大東建託の調査では、実際の住民にアンケートを実施した結果であり、市民に密着したソフト面での観点で順番がつけられている。結果としては、「まちの幸福度」では光市が山口県内でトップになっていた。「住み続けたいまち」では、萩市、防府市に続いて光市が3位。さらに、「まちに誇りがある」では光市が1位であり、「まちに愛着がある」では光市が2位であった。なお、「住みこち」では光市は7位になっている。

このように、決まった指標により出る順位とアンケートによる順位は異なっていることが分かる。ある一つの企業が実施している調査と思うかもしれないが、企業であるからこそ、失敗が許されない中で真剣に実施された調査と言えるのではないかと思う。決まった指標により計算される数値がまちづくりの全てでないこと示しており、今後どう

いうまちづくりを目指して行くべきか改めて課題提起されているように感じるものであった。

まちづくりが都市間競争ではなく、独自性をもってまちの魅力を高め、選ばれるまちを目指していく、本市の魅力はデータで示されている通り、安全・安心が担保されたまちである。また自然豊かで、日々の生活に潤いと安らぎを与えてくれるまちであると言える。こうしたまちの強みを活かしながら誰もが住みよいまちづくりに向けて、みなさんと共に意見を交わしていきたいと考えている。

本日も忌憚のない意見交換をよろしく願いたい。

2 議題

(1) 第3次光市総合計画（案）について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

市内各地区にコミュニティ協議会が展開され、さらには連合自治会や自主防災組織ができ、住民の横のつながりができていることは素晴らしいことであると感じている。一方、行政と地域の各団体や組織との連携という面では不十分な点があるとも感じている。このたび策定する総合計画の内容の実効性を高めるため、地域の意見を聞きながら、地域の各団体や組織に活動してもらうようにする必要があると思う。

●事務局

このたび策定する総合計画の中には、8つの戦略プロジェクトを掲げており、その1つとして93ページに記載している「笑顔がつながる 協働による地域の絆再生プロジェクト」において、地域との関わりについて重点的な取組を続けるというような考えを示している。ご意見をいただいたように、地域の皆様にとっては不十分と感じている現状があることについては、真摯に受け止めた上で、地域の皆さんの思いが少しでも解消されるように努めていければと思っている。

●委員

186ページのごみの減量に関連して、光市で推進していた生ごみのリサイクルの取組の一つである段ボールコンポストを最近聞かなくなった。11月9日の読売新聞の記事では、都会でコンポストが流行しており、ベランダで実施し、できた堆肥を家庭菜園に活用しているとあった。併せて、できた堆肥の使い道がないという課題があるが、市が成約した農家に持っていくと、野菜を安く分けてもらえる事例が記述されていた。こうしたことを踏まえ、光市としてもう一度コンポストについての取組を推進してはどうかと考える。光市の世帯数と生ごみの処理経費から単純に計算すると、年間9億7千万円必要となるが、コンポストの普及により少しでも処理経費の節減になるのではないかと思う。

●事務局

段ボールコンポストに限らず、その他のコンポストについても光市では現在も補助制

度を実施している。この補助制度によりコンポストが普及し、生ごみが減ることを期待しているが、市内に行き渡るほどご活用いただいている状況でないことは認識している。生ごみを減らしていけるよう検討していくこととしているので、具体的な内容や方向性については、引き続きご提言をいただきながら考えていきたい。

●事務局

成果指標に「1人1日当たりのごみ排出量」を設定するなど、所管課も十分認識し取り組んでいくこととしている。

●委員

資料3のパブリックコメント実施結果の概要のうち、(1)の「若い世代の人たちの声にも耳を傾け」という意見についての対応は、具体的にはどのような対応があるのか確認したい。次に(2)のアの「地域住民や関係者、専門家から意見を聴取してはどうか」という意見への対応が、このまちづくり市民協議会での委員からの意見、提言ということになると思うが、印刷製本された計画書の冊子の中に単に名簿を掲載するのでは、計画内容について委員が責任を持っているように見えるため、資料編として名簿を掲載する際には表現を考慮してほしい。資料4の9の「ワーケーションに関する記載の挿入」に関連して、他の地域の方からこの地でもっと長い期間仕事をしたいという気持ちがある人達と交流するコワーケーションという考え方も追加できればより良いのではないかと感じるとともに、県境を越えた往来は観光だけでなく、ワーケーション等の仕事によっても起こるので、そういった視点もあるのではないかと思う。最後に、69ページの目指すまちの姿については、とても重要な言葉であり、共有すべき言葉であるので、「ゆたかな社会～人が輝き やさしさつながる 幸せ創造都市 ひかり～」が決まった経緯について確認したい。

●事務局

このたびの計画策定にあたっては、「未来につながるまちづくり提言板」を実施し、高校生や中高生からの意見を計画に反映している。委員名簿については、委員の皆様にご責任を取っていただくような趣旨で掲載するものではなく、本協議会の委員の皆様のご意見をいただきながら策定したという趣旨で掲載するものである。コワーケーションという単語は使用していないが、ワーケーションだけでなく、コワーキングという単語を使用するなど、新たな考え方については計画書に一定程度は反映している。最後に、目指すまちの姿については、これまでの約2年間の会議において話があった、本市のまちづくりで大切な「やさしさ」、また、昨今のコロナ禍において希薄化し、重要性が再認識されている「つながり」、こうしたキーワードを踏まえながら市のほうから案を提示したものである。本来であれば対面での議論を行うところであったが、その議論を行う予定としていた前回の第7回会議が新型コロナウイルスの感染状況により書面での開催となった。対面での議論ができなかったが、書面開催の際に目指すまちの姿をお示ししており、各委員からのご意見をいただいていることについてはご理解いただきたい。

3 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・ 第3次光市総合計画（案）を12月議会に議案として上程する。

終了時刻 20時05分